

精神疾患合併妊娠における児の精神疾患バイオマーカーの検討

1. 研究の意義、目的、方法

近年、精神疾患患者さんの増加とともに、精神疾患を抱えながら妊娠・出産を迎える女性が増加しています。その中で、次世代への影響、すなわちそのような妊婦さんから生まれたお子さんたちへの影響に関心が寄せられています。精神疾患を抱える女性から生まれたお子さんは、そうでないお子さんと比べて、将来的に精神疾患を発症するリスクが高いことが知られています。しかし、診断のタイミングは早くても3歳児健診の頃であり、胎児期や新生児期、乳児期等、早期に発症を予測する方法は、現時点では確立されていません。成人について、精神疾患の有無やその重症度を評価するのに役立つバイオマーカー（生物学的指標）が、最近の研究で見出されつつあります。母体血中の物質は、胎盤を通過して胎児に直接影響を与える可能性があります。また、精神疾患の発症には環境要因が関与していると考えられていますが、母体環境が胎児に影響を与え、胎児自身のバイオマーカーに変化が生じる可能性もあります。

そこで私たちは、お子さんの臍帯血や羊水の精神疾患バイオマーカーを測定し、胎児期から何らかの影響が出ているかどうかについて調べたいと考えています。また、タンパク質等を網羅的に調べ、精神疾患バイオマーカーとなりうる物質を新たに探索することも予定しています。この研究の結果、胎児期からの影響が明らかとなれば、お子さんの精神疾患発症リスクを見積もり発症予防策を講じたり、母体の妊娠中の治療を胎児への影響がより小さいものへ改善したりすることにつながることを期待され、精神疾患の発症抑制に役立つ可能性があります。

当院で分娩された方の臍帯血及び羊水を使用して、精神疾患バイオマーカー（PEA、BDNF等）を測定します。加えて、質量分析等の手法を用いて網羅的解析を行い、新規の精神疾患バイオマーカー候補物質が抽出された場合、それがバイオマーカーとして有用かつ妥当であるかどうかを検討します。臨床情報は電子カルテから抽出します。これらのデータを匿名化し、解析に利用します。

2. 研究機関名

名古屋大学大学院医学系研究科産婦人科学

3. 研究に係る研究者等の氏名

研究責任者

名古屋大学医学部附属病院産科婦人科 助教・今井健史

研究分担者

名古屋大学大学院医学系研究科産婦人科学 講師・小谷友美

名古屋大学医学部附属病院産科婦人科 助教・中野知子 助教・牛田貴文 医員・森山佳則

4. 個人情報の利用目的

本研究の対象となるのは、2012年1月以降に当院産科婦人科で臍帯血あるいは羊水の採取に同意され、かつ分娩時に採取された方で、下記の臨床情報を取得し、解析を行います。

① 母体の情報（妊娠週数、母体精神疾患診断、母体身体合併症、母体投与薬剤、血液検査デー

タ等)

② 児の情報（在胎週数、出生体重、超音波検査による胎児血流指標、疾患の有無、血液検査データ等）

なお、必要なデータを読み取った後、データを匿名化します。

5. 研究対象者にもたらされる利益・不利益、および不参加の場合の対応

本研究に参加することおよび本研究の成果が、直接研究対象者に利益または不利益を及ぼすことはありません。また、本研究に参加しないことで不利益を被ることは何らありません。

本研究への参加の同意はいつでも撤回することができます。また、そのために不利益を被ることは何らありません。同意撤回を希望される際は説明担当医師までお申し出ください。

6. 開示等の求めに応じる手続方法、苦情の申出先及び研究への利用を拒否する場合の問い合わせ先

検体ご提供者及びご家族のご希望により、他の提供者等の個人情報や研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、本研究の計画及び方法についての資料を入手又は閲覧することができます。本研究における検体の分析結果は、診療に影響しないため基本的には開示の対象としません。疑問や不安、苦情及びお問い合わせについては、下記までご連絡ください。

説明担当医師：今井健史（電話 052-744-2261、ファックス 052-744-2268）

名古屋大学医学部経営企画課（電話 052-744-2479）